

# 長野県立歴史館たより

2021年 春号 vol.106

特集

長野県立歴史館所蔵品展

## 至宝の名品

—学芸員のイチ押し—

絵画工芸編



# 令和3年度の歴史館

長野県立歴史館長 笹本正治

コロナ禍の中で様々な困難に直面していますが、令和3年度も来館者の皆様の安心・安全を第一に考えながら、少しでも県民の皆様に歴史館の必要性を感じていただける展示をしていきたいと思えます。

現在展示準備を進めているのは「至宝の名品—学芸員のイチ押し 絵画工芸編—」です。本館では開館後も多くの貴重な資料を購入し続けてきました。この展示では屏風を中心とした絵画や工芸品を陳列致します。

夏には「青少年義勇軍が見た満州」を企画しています。本館ではこれまでも満州移民を取り上げた展示を行ってきましたが、それを青少年義勇軍という観点からとらえなおしたいと思います。日本の近代、長野県の近代史を語る上で、満蒙開拓は避けて通ることのできない、重い課題です。満蒙開拓青少年義勇軍は満蒙開拓民送出事業の後半の主要形態で、日本内地の数え年16歳から19歳の青少年を満州国に開拓民として送り出しましたので、教育と直結します。教員が学芸員を務めることが多い本館だからこそ、この問題と対峙したいと考えています。

秋には「全盛期の縄文土器」を考えています。



丸田恒雄筆 満州更級郷絵画資料より「日輪兵舎」  
(当館蔵)

令和元年の土偶展では長野県の縄文時代がいかに凄かったか確認できました。いうならば、シナノは縄文文化の中



塩尻市上木戸遺跡出土台付鉢  
(水煙文土器の祖型 当館蔵)

心でしたが、時代を象徴するのは縄文時代中期の土器でしょう。北の新潟県では火焰形土器があります。これに対して山梨県から出土するのが水煙形（水煙文）土器です。火と水の対比によってその中間にあるシナノは忘れがちなのですが、ここにも水煙の他、褶曲文や籠目文など大変に素晴らしい土器がいっぱいあります。新潟と山梨の間で、独自の発展を遂げシナノに花開いた縄文土器の奥深さをぜひご堪能ください。

冬は「水彩画家・丸山晚霞—「郷愁の画家」が描く明治の日本」(仮)です。晚霞は1867（慶応3）年に現在の東御市祢津に生まれ、1902年には「太平洋画会」創立に加わり、小諸義塾の水彩画教師となって、島崎藤村とも交友がありました。1936（昭和11）年日本山岳画協会創立に参加、晩年には郷里にアトリエ「羽衣荘」を新築しました。彼が描いた水彩画は明治の信州の風景を眼前に呼び起こします。

このように、令和3年度の展示は様々な角度から「信州再発見」をする契機にしたいと思っています。時代を超え、場所を越え、扱う対象を変えながら、私たちはどこから来てどこに行こうとしているのか、思索の時を歴史館でお楽しみください。

# 秋季企画展を終えて

## —ここまでわかった信州弥生文化のひとこま—

### 1. 生産的分業の証明

1992年長野市榎田遺跡の発見により、長野盆地に大陸系磨製石斧（えのきだ 太形蛤刃・ふとがたはまくりは 扁平片刃）の一大製作地の存在することがわかりました。ほぼ同時期に長野市松原遺跡、同市中俣遺跡の発掘調査が行われ、磨製石斧の製作工程に生産的分業のあることも明らかになりました。磨製石斧は長野県北部の栗林式土器の文化圏内（ほぼ80km圏）に供給され、さらにそれを越える流通（100km以上）さえ議論できるようになりました。

原石の獲得から、そわり 粗割、はくり 剥離成形、こうだ 敲打成形までの初期製作（未成品段階）を担う榎田遺跡、未成品を入手し、研磨整形仕上げ（完成段階）を行う松原遺跡と中俣遺跡の存在、完成品を需要する消費遺跡の数々が調査によって証明されました。今のところ、国内で唯一、石斧の生産的分業と流通システムを考古資料として明示できる重要な成果がありました。



信州ブランドの広がり

### 2. 青銅器祭祀の証明

2007年中野市柳沢遺跡で銅戈8点、銅鐸5点を埋めた青銅器埋納坑が発見されました。銅戈は刃を立てて並べ、銅鐸は銅戈と直行するように、やはり鱗を立てて並べられていました。銅戈も銅鐸も表面がツルツルとすり減りしていて、使用頻度の高さを観察することができました。埋納法は西日本における弥生文化の在り方と同様であることから、銅戈や銅鐸を用いた青銅器祭祀が、信州の栗林文化に存在したことが証明されました。今

のところ、東日本で唯一無二の本格的な農耕祭祀の足跡となりました。

### 3. 階層制の証明

長野市篠ノ井遺跡群（ひじりがわいていぼう 聖川堤防地点）で、1基の円形周溝墓と4基の土坑墓が20m四方にまとまって発見されました。周溝墓の主体となる土坑では、鉄釧とガラス小玉、そして鉄剣が副葬されていました。一方で土坑墓の主体部には、装身具を全く伴わない例が1基、鉄釧を持つ例が3基ありました。信州弥生文化の終末に、武器形鉄器を副葬の頂点とする階層分化の姿を確認することができました。

1996年上田市上田原遺跡で弥生時代後期の鉄ほこ 鉾1点が単独の土坑から発見されました。穂袋にせったい 節帯をもつ型式で、この時期としては日本列島に類例がなく、朝鮮半島製の可能性を視野に、製作地や製作の経緯、歴史的意義を議論できるようになりました。

2002年木島平村根塚遺跡で弥生時代後期の鉄剣3点が発見されました。2号鉄剣は、独立した墳丘などを伴わない単独の土坑から出土しましたが、渦巻文装飾付鉄剣と呼ばれ、日本で唯一の出土例です。素材の産地を含め、朝鮮半島南部との関係が濃厚とされています。

武器形鉄器の副葬、比類のない外国産鉄製武器の登場など、階層分化の現れとともに東アジア世界の一員として、社会が成熟し「クニ」としてまとまっていく信州弥生文化のクライマックスを語れるようになりました。（町田勝則）



上田市上田原遺跡出土の副葬品  
（鉄鉾・鉄釧・ガラス小玉；上田市立信濃国分寺資料館蔵）

長野県立歴史館では、信濃の歴史に触れ、歴史学習を深められる場を提供するため、開館以来様々な活動を行ってきました。その一環として、信濃の歴史の変遷や生活風土の諸相を示す史資料や、長野県と関係深い美術工芸品の収集にも努めてきました。今回は所蔵品展として、絵画や工芸に焦点を当てた当館の所蔵資料を紹介いたします。合戦図や風俗図などの屏風作品や絵巻、絵図、そして工芸品。お馴染みの屏風からなかなか見ることのできない作品まで、学芸員がお薦めする当館所蔵の優品を一堂に展示いたします。

### 源氏物語図屏風 (紙本著色 江戸時代前期)

平安時代の代表的物語文学「源氏物語」の主要



源氏物語図屏風 右隻 第二八帖「野分」(当館蔵)

な場面を描いた、六曲一双の屏風です。江戸時代前期に、土佐派系の画家の手によって描かれたものとみられます。金地濃彩により華やかな印象を与えるだけでなく、人物装束に描かれた文様や、画中の障壁画などを細やかに描き分け、土佐派の作風の特徴がよく出ています。左隻では画面右から第三帖「空蟬<sup>うつせみ</sup>」、第一帖「桐壺」、第九



吉田初三郎

帖「葵」の場面が描かれています。右隻では画面右から第一四帖「滯標<sup>みおつし</sup>」、第三五帖「若菜下<sup>わか なげ</sup>」、第二八帖「野分<sup>の わき</sup>」の場面が描かれています。この屏風の興味深いところは、右隻と左隻で描かれている内容が対になっている、という点です。例えば左隻の「空蟬」と右隻の「野分」で描かれた「女性の姿を覗き見る」という同じ場面でも、左隻で描かれた源氏と、右隻で描かれた源氏の息子夕霧とでは姿勢や表情が対照的に描かれています。

## 長野県之温泉と名勝 (絹本著色 昭和7年)

長野県が鳥瞰図専門の画家吉田初三郎に発注したものと考えられる印刷物の原画で、全幅4メートルを超える大きな絵です。大正末期から昭和初期にかけて、全国的な旅行ブームにより鳥瞰図を専門とする画家の描いた観光パンフレットが数多く出版されました。初三郎はその中でも圧倒的な人気を誇り、生涯において千数百点もの鳥瞰図を描いたとされています。全国トップクラスの数を誇っていた長野県内の温泉と、寺社や名跡などの観光資源を交通網とともに詳細に描き上げています。本来であれば絵の中央部に描くべき諏訪湖を左隅に配置して、当時はまだ温泉数の少なかった

南信地方を狭く描いています。一方で主題と無関係の青森や下関などを描いて遠近を誇張しています。大胆な強調と省略を行いながらも、観る者に違和感を与えない絵にまとめ上げる初三郎の力量が感じられる作品です。

上記の作品以外にも、当館所蔵の最も古い古文書である「無垢浄光経陀羅尼<sup>むくじょうこうきやうだらに</sup>」と、それを納めていた百万塔（ともに奈良時代）等が展示されます。陀羅尼経は4月27日(火)から5月9日(日)までの限定公開となります。(宮坂 到)

### 主な展示作品

#### 【前期】

- ・田中平八家旧蔵雛道具（1899年以降）
- ・信州更科田毎の月（木版 大判錦絵三枚続 1853年）
- ・一光三尊像（紙本著色／一幅 室町時代末期）

#### 【後期】

- ・川中島合戦図屏風（紙本著色／六曲一隻 江戸時代後期）
- ・笠懸犬追物図屏風（紙本著色／六曲一双 江戸時代中期）
- ・脇差 信濃国宗次（一口 江戸時代末期）

#### 【全期間】

- ・瑞花双鳥八面鏡（重要文化財）（一枚 平安時代）
- ・緑釉陶器皿（重要文化財）（四枚 平安時代）
- ・灰釉陶器四耳壺（一口 平安時代）
- ・佐久間象山旧蔵 短銃（二丁 江戸時代末期）



長野県之温泉と名勝（当館蔵）

# 屋根を守り彩る瓦 のきまるがわら ～軒丸瓦の文様～

6世紀末から7世紀初頭に奈良県明日香村に造営された飛鳥寺は、日本最初の寺院として広く知られていますが、その屋根には朝鮮半島から伝わった技術で作られた「瓦」が葺かれています。これが日本における瓦文化の始まりです。当時、板葺きが主であった都の建物は、荘厳で重厚な雰囲気へと様変わりしました。

瓦自体の歴史は古く、中国西周時代早期（紀元前11世紀中葉～前10世紀中葉）に作られ始めたと考えられていて、当時は板状の粘土をわずかに湾曲させた平たい瓦（平瓦）のみでした。筒状にした粘土を二つに分割した丸い瓦（丸瓦）は西周中期に作られます。瓦に文様がみられるのは西周後期になってからですが、軒先の丸い瓦（軒丸瓦）のみでした。

中国で考案された瓦は朝鮮半島を經由して日本にもたらされますが、それまでの軒丸瓦の文様は、饕餮（中国神話の怪物）や実在の動物、わらびて蕨手や吉祥句などでした。その後仏教が盛んになるとそのシンボルともいえる

「蓮」をモチーフにした「蓮華文」が一般化していきました。

では、日本の軒丸瓦の文様はどうでしょう。日本で最初に



蓮の花と長野市田中地籍採集蓮華文軒丸瓦  
(米山一政資料 当館蔵)

瓦が葺かれた飛鳥寺の文様は、百済の影響を受けた蓮華文でした。初めは平面的で簡素なものでしたが、次第に花びら（花卉）が立体的になります。7世紀末には藤原宮の造営で初めて寺院以外の建物で瓦が使用されますが、これ以降は仏教とは直接関連のない宮都の建物でも蓮華文が使われていきました。平安時代後期になると「巴文」と呼ばれる文様が考案され、蓮華文からその座を奪い、軒丸瓦の主要な文様となりました。巴の由来については諸説ありますが、火災除けの意味があるともいわれています。



上田城採集巴文軒丸瓦  
(神津猛資料 当館蔵)

瓦は16世紀後半に城郭で使用され、「権威の象徴」の意味合いが濃くなります。代表的なものは織田信長や豊臣秀吉が使用した「金箔瓦」です。文様は巴文ですが金箔を貼ることで豪華さを強調しています。また、家紋も使われるようになっていきました。

江戸時代になると丸瓦と平瓦が一体となった「さんがわら棧瓦」が作られ、町屋などに広く普及しますが、文様は従来の巴文を踏襲したものとなります。明治以降は文様が消えてしまい、現在では瓦屋根の家自体が少なくなるなど、瓦にとって過渡期を迎えているのかもしれませんが。

飛鳥時代から現在に至るまで使われている私たちの生活に密着した資料の一つが瓦です。観光地などの寺院で仏像を鑑賞し、御朱印をいただくのももちろんですが、少し視線を上げて屋根に葺かれた瓦を見ても、新しい楽しみ方の一つではないでしょうか。

(柴田洋孝)

# 女子教育の向上に尽力した河内山寅の履歴書

明治期、長野県の女子教育の向上に<sup>しりよく</sup>尽力した河内山寅の履歴書が、当館所蔵の行政文書（長野県宝）に綴られています。彼女の経歴については、「河内山寅先生」（『教育功労者列伝』1935年、信濃教育会）の記述が、既存の功績書き等に引用されていますが、本人自筆の履歴と異なるところもあり、ここに取り上げます。

この履歴書は、小県郡長・武井一郎から長野県事務官・小早川潔宛に提出した、1906（明治39）年度の文部省の教育功績表彰者推薦書類に添えられていたものです。それによれば、「本籍長野県小県郡上田町六百廿壺番地」、族籍「長野県士族」、1855（安政2）年8月26日生。「学業（学歴）」に続き「業務（職歴）」が書かれ、それぞれ明治38年8月1日付で「右之通相違無之候也」と、自筆署名に押印されていました。

学歴には、1870（明治3）年3月から翌年10月までの1年8カ月間に「上田町熊倉政次郎二就キ数学修業」、同5年1月から同8年12月までの4年間に「上田町上野尚志二就キ漢籍修業」、同8年11月から同10年2月までの1年4カ月間に「上田変則中学校二入校当校学科修業」。同11年5月に「本県小学校師範学校第壱期課程卒業」。同19年4月から12月までに「上田町出野音吉二就キ理科并ニ教育学修業」、同20年1月から同23年に「授業傍教育学、理科、和文研究」をおこなったとあります。



河内山寅履歴書（当館蔵）



河内山寅画像  
（『教育功労者列伝』より転載）

また、職歴には明治3年2月から同6年4月まで「父長善ト共ニ踏入村ニ出張児童教育ニ従事ス」、同6年4月から同7年に至る1年間に「旧常田成明学校授業生勤務」、同10年3月から同16年6月までの5年4

カ月間に「上田町一番小学松平学校授業生勤務 月俸三円乃至六円」。同17年4月から同19年3月までの2年間に「上田街学校授業生勤務 月俸六円五拾銭」。同19年4月から同22年10月までに「上田女学校授業生勤務 月俸七円」。同22年10月から同25年6月までに「上田尋常小学校授業生勤務」とあります。

河内山寅は、必要な教科を修業しながら18年近く授業生（代用教員等）として教壇に立ち、訓導（小学校教員）となりました。それは、いまだ女性の社会進出を阻む世にあって、自らが道を開くことでもあったのです。今日の女性教諭の先駆けで、女子教育に対する功績により表彰された河内山寅自筆履歴書は原文として貴重です。

なお、一連の書類の最後に、「小学校教育功績状 壹通、賞与金辞令 壹通、右謹テ御請仕候也、明治三十九年十一月三日、長野県小県郡上田女子尋常高等小学校訓導、河内山寅 印」（句読点は筆者付加）と記される請書、文部省から「金百五拾円給与ス」との写し書き、「小学校教育功績状 交付式ニ於ケル知事代理西村事務官告辞ノ要領」が綴られています。（伊藤友久）

# INFORMATION

## インフォメーション

### ■2021(令和3)年 3月～6月の行事予定

3月

休館日  
1・8  
15・22  
29

#### 所蔵品展

### 至宝の名品

—学芸員のイチ押し 絵画工芸編—

3/13(土)～4/29(木) 前期  
5/1(土)～6/13(日) 後期

史資料保全のため、前期と後期で  
展示品替えをおこないます。

#### 講座・イベント

県立歴史館の信州学講座

第6回 3/6(土) 13:30～

「上田から見る戊の満水」

(上田市立博物館 高野美佳氏)

「県立歴史館の信州学講座」は定員80名、  
当館講堂で行います。HP等による事前申  
し込み制です。

#### 同時開催

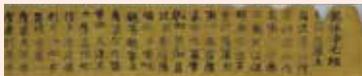
### 「掘るしん2021」

長野県埋蔵文化財センター速報展

3/13(土)～5/9(日)



百万塔  
木造 奈良時代(8世紀)



無垢浄光経陀羅尼(部分)  
紙本印刷 奈良時代(8世紀)  
公開期間4/27～5/9



職人尽図(塗師)  
紙本著色 江戸時代中期

新型コロナウイルス感染症  
拡大防止のため、展示・講  
座・イベント等は、状況によ  
り変更、延期、あるいは中  
止とさせていただきますが  
あります。

歴史館でこどもの日 5/5(水祝)

#### 各講座の日程概要

- ・5/8(土) 県立歴史館の信州学講座①
- ・5/29(土) 古文書講座(上級①)  
古文書演習
- ・6/3(木) 館蔵文書を読む会
- ・6/5(土) 古文書講座(中級A①)
- ・6/6(日) 古文書講座(初級A①)  
考古学セミナー
- ・6/10(木) 古文書講座(初級B①)  
古文書講座(中級B①)
- ・6/12(土) 県立歴史館の信州学講座②
- ・6/19(土) 考古学講座①
- ・6/26(土) 古文書講座(上級②)  
古文書演習

4月

休館日  
5・12  
19・26  
30

5月

休館日  
6・10  
17・24  
31

6月

休館日  
7・14  
21・28

#### 表紙の写真の解説

### 平家物語図屏風(部分)

紙本著色 江戸時代初期 当館蔵

平家物語から源義経の活躍した場面が主  
に抜き出されて描かれている屏風の、屋島の  
戦いの場面です。弓の名手であった那須与  
一宗隆が、鎧矢で扇を射落とそうとしています。  
与一は見事に扇を射落とし、その功績で信濃  
国角豆荘(松本市笹賀)などの地頭職を得るこ  
とになりました。

すやり霞と呼ばれる大和絵の技法を用いて  
描かれた金色が目を引きます。場面を区切つ  
たり、遠近感を出したりする効果があります。  
この場面でも、船と与一との間に霞がせり出し  
て描かれることによって、与一と船の遠さが強  
調されています。

## 行事アルバム

### 阿部守一知事との対談



11月7日(土)に、阿部守一知事と笹本正治館長  
が初めて対談しました。「歴史館を語る」と題し、  
歴史教育に対する問題や必要性について意見  
が交わされました。

### 秋季企画展シンポジウム



11月22日(日)に秋季企画展「稲作とクニの誕生  
—信州と北部九州—」のシンポジウム『集落間の  
連携と「クニ」の誕生を考える』が開催されまし  
た。明治大学の石川日出志先生をお迎えして、県  
内各地域の若手研究者が長野県内の弥生時代  
について熱く語りました。

### クリスマスリースをつくろう

クリスマスリース作りは、  
新型コロナウイルス感染対  
策として製作キットの配布の  
みとなりましたが、おうちで  
素敵なリースが出来上がり  
ました。今年は歴史館でき  
るといいですね。



## 名前が決定しました!

令和2年4月に当館ホームページがリニューアルし、「こども歴史館」のページに男の子と女の子のキャラクターが登場しました。

名前を募集したところ、たくさんの方から応募をいただき、お名前総選挙の結果、11/15に名前が決まりました。名前を考えたくださった方には、笹本館長から表彰状と記念品を贈らせていただきました。

名前を考えてくださった皆様、総選挙に参加してくださった皆様、本当にありがとうございました。



## 長野県立歴史館たより 春号 vol.106

2021(令和3)年2月5日発行

編集・発行 長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市屋代260-6  
電話 026-274-2000(代) FAX 026-274-3996  
E-mail: rekishikan@pref.nagano.lg.jp  
ホームページ: https://www.npmh.net/

印刷 奥山印刷工業株式会社